



## 経営戦略を学ぶ

## 美郷経営塾

町内企業の経営者や後継者の人材育成および町内企業の経営力向上を図る「美郷経営塾」が、8月と10月に美郷町役場で開催され、美郷町産業大使である澤登一郎氏(ナガイレーベン株式会社代表取締役社長)が講師を務めました。澤登氏は「たかが白衣されど白衣(東証プライム市場への道のり)」と題して講演し、「時代や流行に沿う、さまざまなニーズに応える白衣を意識した」「セールスルート、カタログ、市場を知るといった3本柱で戦略を練った」と話しました。講演終了後には多くの受講者から質問があがり、活発な意見交換が行われました。

### 挑戦そしてつながり

## 「鴻鵠の志」育成事業

秋田市大森山動物園の園長である小松守氏が講師を務めた「鴻鵠の志」育成事業が、10月28日に美郷中学校で開催されました。小松氏は「つながりの中、生きる」と題して講演し、「皆さんには夢を抱き、鴻(おおとり)のように大きく羽ばたき、挑戦し続ける頼もしき人になってほしい」と話し、そのうえで「つながり、助け合うことの意味をよく考え、大事にしてほしい。つながりの中で生きることによって人は成長し、その先に頼もしき人がある」とも話しました。ほかにも、挑戦やつながりについて、大森山動物園でのエピソードを話しました。



## 創造性と環境

## 美郷カレッジ

令和4年度の最終回となる美郷カレッジが、10月29日に美郷町公民館で開催されました。同日に開催された学友館特別展でギャラリートークを行った、秋田県立美術館長である渋谷重弘氏が講師を務め、「自然を通して美を学ぶ」と題して講演しました。渋谷氏は講演で「失敗してもいいから自分でやってみること、それができる環境であることが大事」「盛んに外で遊び、創造的な活動をすることで感性が育まれる」と話しました。このほか、絵にあらわれる描いた人の特徴と原因についても話しました。



■(右)貝瀬(ほのか)選手

### ヨネックス特別協力

## ソフトテニス教室

ヨネックス株式会社のソフトテニスチームに所属する貝瀬ほのか選手が講師を務めた「ソフトテニス教室」が、10月30日に美郷中学校テニスコートで開催されました。当日は美郷中学校ソフトテニス部員31名が参加し、貝瀬選手から「球との距離、打点を意識すること」「日ごろの練習から試合を意識し、常に考えながらプレーすることが大事」などのアドバイスを受けました。

教室終了後、参加した生徒たちからは「習ったことを生かして日ごろの練習を頑張ります」「これからの大会で今日の成果を発揮したい」といった感想が聞かれました。



### 多彩な音楽で観客を魅了

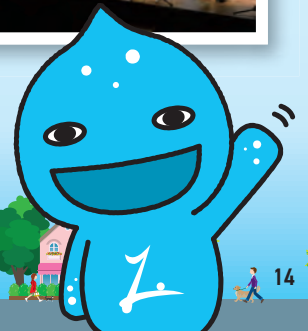
## 海上自衛隊 舞鶴音楽隊コンサート2022 in 美郷

美郷町に初来町となる「海上自衛隊舞鶴音楽隊」によるコンサートが、11月13日に美郷町公民館で開催されました。当日は行進曲「秋空に」から始まり、昭和から令和のアニメの主題歌や舞鶴地方隊創設70周年記念イメージソングの「未来」などが披露されました。またアンコールに応じて「シング・シング・シング」も披露され、会場を埋め尽くす多くの観客を、多彩な音楽で魅了しました。



MISATOPICS

## 町の話



## 非日常的な生活を体験

# 小学校4年生による 宿泊体験活動

町内各小学校の4年生による宿泊体験活動が行われ、1泊2日の日程で美郷町宿泊交流館ワクスに宿泊しました。この活動では、グループごとにさまざまな課題に取り組む「グループワーク」、普段の学校生活では体験できない「星空観察教室」、与えられた問題を解くために歴史民俗資料館を調べ回る「トレジャーハンティング」が行われました。仲良く、協力し合いながらそれぞれの活動に取り組む児童たちの姿が見られました。



■仙南小学校



▲六郷小学校  
◀千畑小学校



## そのココロは

COLUMN  
WINDS

コラム

# 風

美郷町長  
松田知己

三遊亭円楽師匠がお亡くなりになったことで、10月から11月にかけて、随分テレビの特番がありました。ご覧になった方も多く

と思います。嫌味のない毒舌が持ち味で、個人的にはとても好きな落語家でした。ウィットに富み、奥の深い笑いがあつたように思います。かえすがえす、惜しい人を亡くしました。

こうした気持ちになったのは、テレビ番組「笑点」のおかげです。私は小学生の頃からよく「笑点」を見ており、楽太郎さん時代から笑わせてもらっていました。もちろん、今でも「笑点」は時間が合えばよく見ます。「ゴホン！ といえよ」の企業がスポンサーだから、ということもあるかも知れませんが、その「笑点」、毎

回いろいろなお題で番組が構成されますが、特に「謎かけ」は面白いです。

さて先月、町は「美郷町地域振興券」の追加給付を町臨時議会で認めていただきました。町では既にコロナ禍での生活支援策として、住民税非課税世帯に国、県及び町からの給付金をお渡しするとともに、住民税課税世帯には美郷町地域振興券を給付しております。しかし、その後も電気料はじめ各般の値上げが進行するとともに、冬の原油等の使用増加も見込まれるため、国からの交付金を財源に、全世帯に対して地域振興券をさらに給付することにしました。現在、来年1月中旬にお手元に届くよう作業を進めております。今回の

全世帯への振興券給付は、基本的に高騰する生活必需品や電気料、燃油等に対する直接的、間接的な生活支援策ですが、付随的にこれまでと同様、消費喚起による町内の商工業振興策でもあります。

生物の細胞には「核」がありますが、世の中の取り組みにも必ず核があります。それを「コロナ」と言い換えるならば、施策展開にも当然コロナがあります。円楽師匠を追悼する観点で、今回の地域振興券の追加給付を謎かけで問うならば、「美郷町地域振興券の給付と掛けて、難しい数学問題の参考書の準備と解く。「そのココロは」。「ともに、かいて（家庭、過程）を助ける対応でしょう」。円楽師匠のように切れ味鋭くとはいきませんが、どうか悪しからず（笑）。



▲駐日タイ王国大使の来町歓迎セレモニーであいさつをする松田町長